

令和7年度第3回行政改革推進委員会会議記録（要約）

日 時 令和8年2月2日（月）午前10時～午前10時50分

場 所 近江八幡市役所4階 委員会室2

出席委員 真山会長・松岡副会長・橋本委員・壬生委員・川崎委員・藤田委員・
北川委員・山田委員

事務局 行政改革課 春田課長
後課長補佐
油井主査
中西主任主事
中澤主事

1 行政改革課 春田課長挨拶

2 議題

(1) 第2次行政経営改革指針（案）及び実施計画（案）に係るパブリックコメントの結果の報告

事務局 資料1「パブリックコメントの実施結果」、資料2「第2次行政経営改革指針（案）」、資料3「第2次行政経営改革実施計画（案）」に基づき説明。

（説明概要）

- ・パブリックコメントを実施したところ、実施計画について、文言の修正に関する意見及び成果を測る指標に関する意見ももらった。
- ・パブリックコメントの意見を受けて修正を行ったものを指針と実施計画の最終案とする予定である。

会長 各委員から意見を求める。

委員 「第2次行政経営改革実施計画（案）」のP.12、P.25で「おおむね」、「おおむね」と「、」の有無の違いがあるため統一したほうがよい。

事務局 ご指摘のとおり修正する。

会長 そのほか意見がなければ、修正後の内容で事務局の案に了解したものとす。

(2) 第2期公共施設等総合管理計画及び第2期個別施設計画の概要及びスケジ

ュール
事務局

資料4「第2期公共施設等総合管理計画及び第2期個別施設計画の策定方針」、資料5「第2期公共施設等総合管理計画及び第2期個別施設計画の策定に係る体制」、参考資料「公共施設等総合管理計画(概要版)H28策定」、参考資料「第1期個別施設計画(令和7年3月更新)(一部抜粋)」に基づき説明。

(説明概要)

- ・公共施設等総合管理計画は市の公共施設全体の方針についての計画、個別施設計画は市の公共施設一つ一つの管理方法についての計画である。令和8年度に二つの計画が満了するため、第2期計画(令和9年度～令和18年度)について来年度、本委員会で助言、提案をもらいたい。
- ・全ての施設の改修等ができれば理想的であるが、人口減少に伴い、現在の市の財政状況に基づいた検討を実施する必要がある。そのため、第2期計画ではこれまでの取組を振り返った上で、単なる面積の削減目標だけでなく、今後の公共施設のマネジメント体制を構築するとともに、公会計を活用してより実効性の高い計画にしたいと考えている。
- ・計画期間は10年間であるが、40年先の未来を見据えて計画し、また社会情勢の変化を踏まえ、5年経過後に内容の見直しを予定している。
- ・計画策定については、まず関係課で素案を作成し、市の決定機関である行政改革推進本部で素案の承認を得た後、本委員会に報告し、助言をもらう。その後、本委員会の意見を反映し、再度行政改革推進本部で承認を得た後、パブリックコメントを実施し、パブリックコメントの意見を反映した上で、本委員会で意見をもらい、最終案とする予定である。

会長

各委員から意見を求める。

委員

個別施設計画の第1期計画にある施設利用状況及び管理運営に係る経費について、入館者数が記載されているが、この数字は貸館利用した人数の数字になるのか。

事務局

貸館利用件数や延べ人数になっていると思うが、施設によってカウンターの仕方が異なっている可能性がある。

委員

コミュニティセンターは貸館をしている施設であるため、貸館利用人数でも理解できるが、地域の施設として利用しやすい状況をつくってもらいたいので、貸館以外の人数も含めてもよいと思う。

事務局

コミュニティセンター等は地域のイベント等も実施されるため、もしその利用人数等が把握できれば地域にどれだけ馴染んでいるか等も確認できる。可能であれば算定に含めたい。

会長	総合管理計画及び個別施設計画の第2期計画について、本委員会で審議し、助言を行っていく方針とする。
委員	総合管理計画において、公会計の活用に力を入れていきたいと説明があったが、具体的にどのように活用していくのか。またパブリックコメントを実施するタイミングでは、ある程度計画が固まっている段階だと思うが、計画を作っていく途中で施設の利用者や関係者の意見を把握してほしいと思う。意見の収集について何か検討していることがあれば教えてほしい。
事務局	公会計の活用については、現在、市の様々な資産が情報として載っている固定資産台帳を精緻化している段階であり、これまでは、この固定資産台帳の活用を検討できていなかった。これからは固定資産台帳を利用し、資産の情報に基づいた施設の利活用を検討していきたいと考えている。 市民の意見については、日常から施設の利用者にアンケートを取っているはずなので、まずはそのアンケートデータを把握したいと思っている。
委員	公会計については、何を知りたくて何に使いたいかをある程度考えた上でデータの在り方を整理するやり方もある。精緻化自体に手間がかかりすぎることもあると思うので必要なデータをしっかり集められるように検討してもらいたい。
委員	老朽化した小・中学校について、新築するのではなく、大規模改修するとされているものがある。改修には5、6年かかるとも聞いており、費用対効果やそこで学ぶ生徒たちの環境を考えられているのかと疑問に思う。また、田んぼ等の土地を活用しようと思えば地盤を固めること等に時間が必要になる。この土地はこの先利用するには何年かかる等の先を見通した検討を計画の策定にしっかり入れ込んでほしい。
会長	計画の策定自体も大変であるが、物価高騰等の社会情勢の変化もあり、工事を請け負ってくれる事業者がいない等の問題も聞いているため、そのあたりも勘案して策定してほしい。
委員	新庁舎では、フリーデスクとなり、職員が部署や席に固定されなくなったのはよいと思う。いろいろな問題もあるだろうが、様々な立場の意見が交わされるようになり、固定観念にとらわれなくなり、様々なアイデアが出ると思う。
事務局	新庁舎になってから、他の課とのコミュニケーションが活発になった。まだ手探りではあるが、今後、創造性がある業務に活かしていけると思う。また、机に引き出しがなく、収納スペースも限られているため、書類が減り、ペーパーレス化につながっている。

委員	公共施設の利用者からのアンケートについて、各施設でアンケートを取っていると思うが、市の公式LINEの利用者が多いと感じるので、市の公式LINEを利用したアンケートを実施するとよいと思う。
事務局	第2期計画については、実効性を追求した計画にしていきたいと考えている。他自治体でも国の指導により計画を策定しているが、8、9割の自治体は仕組みがうまくいっていないと聞いている。うまくいっている自治体は市民参加も活発であり、こういう施設であってほしいという意見を聞くことも重要であると思っている。しかし、全てを実現することは現実的ではないため、その中でも何を優先したいか、という市民の声を聞くことが重要だと思っている。市の公式LINEでのアンケートも意見聴取の方法の一つである。どのように意見聴取するかも含めて次年度の本委員会で助言をもらいたいと考えている。
委員	全国的に上下水道管の破損が起こっていることから、施設だけではなく、インフラの管理についても懸念がある。近江八幡市の現状を分かっている範囲で教えてもらいたい。
事務局	市のインフラの現状については行政改革課としては把握できていない。ただし、総合管理計画の範囲には施設だけでなくインフラの管理についても含まれており、インフラについての計画も個別に存在する。個別の計画の中で課題としてもっていることは確認しているが、その内容がどれくらい深刻であるのか、それについて、どのように対応していこうと考えているのかは、次期計画策定時に確認し、連携を取っていきたいと考えている
会長	そのほか意見がなければ、事務局の案に了解したものとする。

3 閉会